

2026 年 9 月 23 日（水）聖書研究祈祷会

奨励：赤井博夫兄

聖書：ルカによる福音書 10 章 25 節～37 節

賛美：新聖歌 99 番 『馬槽の中に』

題：『**善きサマリア人**』

本日の題は「善きサマリヤ人」とつけさせていただきましたが、今日のテーマは「永遠のいのち」です。

ルカ 10 章 25 節『さて、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試みようとして言った。

「何をしたら、**永遠のいのち**を受け継ぐことができるでしょうか。」

律法専門家：27 節『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、**主を愛しなさい**」、また「**あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい**」とあります。

マタイ 22 章 36 節『「先生、律法の中でどの戒めが**一番重要**ですか。』』

37 節『イエスは彼に言われた。「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、**主を愛しなさい**。」

38 節『これが、重要な第一の戒めです。』

39 節『あなたの**隣人を自分自身のように愛しなさい**』という第二の戒めも、それと同じように重要です。』

ガラテヤ書 5 章 14 節『律法全体は、「あなたの**隣人を自分自身のように愛しなさい**」という一つのことばで全うされるのです。

イエス：ルカ 10 章 28 節『あなたの答えは正しい。**それを実行しなさい**。そうすれば、いのちを得ます。』

律法専門家：29 節『では、私の隣人とはだれですか。』

「イエスのたとえ話」 善きサマリア人

【登場人物】：強盗に襲われたユダヤ人、^{おいはぎ}追剥、祭司、レビ人、サマリア人、家畜（ろば）

【場所】：エルサレムからエリコへ下る道（エリコ街道）

「ルカ 9 章 51 節からエルサレムへの旅の記録」

51-53 さて、天に上げられる日が近づいて来たころのことであった。**イエスは御顔をエルサレムに向け、毅然として進んで行かれた**。そして、ご自分の前に使いを出された。彼らは行って**サマリア人の村**に入り、イエスのために備えをした。しかし、**イエスが御顔をエルサレムに向けて進んでおられたので、サマリア人はイエスを受け入れなかった**。

サマリア人：BC 722 年北イスラエル王国はアッシリア帝国に滅ぼされた。わずかに残ったサマリア人は、アッシリアの血が混じった汚らしいイスラエル人として南ユダ王国のユダヤ人から軽蔑されながらゲリジム山に神殿を構えた。ユダヤ教と異教との混合がなされたため、この地の住民はエルサレムのユダヤ人から差別の対象とされた。

ゲリジム山：パレスチナ地方中部のサマリア地方の南に位置し、サマリア人が前 4 世紀頃山上に神殿を建立。彼らはモーセ五書のみを聖書とし、独自の信徒集団と儀式を維持した。
(現在はイスラム教徒の墓域となっている)

ルカ 10 章 30 節『強盗たちはその人の着ている物をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。』

祭司（宗教上の儀式を執行する職能者）：反対側を通り過ぎて行った。

レビ人（祭司の下で神殿の奉仕をする）：反対側を通り過ぎて行った。

【触らぬ神に祟りなし。見て見ぬふりをする。】

（民族・宗教・偏見・差別・危険・濡れ衣・敵・費用等 ⇒ 様々な壁・躊躇し実行できない。）

旅人サマリア人：『見てかわいそうに思った。そして近寄って、傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで包帯をし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って介抱した』

ルカ 10 章 35 節『次の日、彼はデナリ二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。
「介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。」

イエス：36 節『この三人の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。』

律法の専門家：37 節『その人にあわれみ深い行いをした人です。』

イエス：37 節「あなたも行って、同じようにしなさい。」

◇ハーレイは、イエス自身が最も親切な人であった。もし 3 年間の短い公生涯に行った親切を全部記したら世界もその書物を収めきれない、と言っています。

◇ヨハネ 21 章 25 節『イエスが行われたことは、ほかにもたくさんある。その一つ一つを書き記すなら、世界もその書かれた書物を収められないと、私は思う。』

最後に、もう一度最初に賛美しました『馬槽の中に』の 2 番の歌詞を読んで終わります。

「食する暇も うち忘れて 虐げられし 人を訪ね 友なき者の 友となりて 心砕きしこの人を見よ」